

未来に伝えていく「台風二十三号」

昨年十月二十日。私は前日からずくと雨がよく降っていて、川の下流のよく浸水しやすいうちを心配しながらすごしていました。夕方ごろ、家の前まで水が来て避難勧告も出ない間に、腰のあたりまで冠水した道路を車で避難所まで行きました。数日後、やっと家の近くの大量の泥が少なくなり家に入れることになりました。家に向かう途中、いつも見なれた風景のはずが、まったく違うところに

来た様に思ってしまったほど私の家の周辺はあれ果てていました。泥だらけの道路や家、その泥を取ったり掃除する人々、さまざまなお光景が私の目に飛びこんできました。また、自宅の中も、水害前の面影もなくここは数日前まで自分が住んでいた家なのかと思うほどひどくあれ果てていて絶望しました。水害後の片づけや掃除はたくさんさんのボランティアの方々が手伝って下さいました。

いつもの台風と同じだとあまり考えていた

台風二十三号。しかし、この恐ろしい台風を
経験して、自然災害で大きな被害を受けた人
々の苦勞と、ボランティアの方々に対する感
謝の気持ちなどさまざまなのが分かりまし
た。私は、自分は何の被害も受けていないか
らと、この台風のことを人事だと思っている
人に、自分の住んでいる豊岡市が、どんな被
害を受けて、被災者の人々がどれだけ苦勞し
てここまで復旧したかということを知ってほ
しいと思うし、被災者の私達が、これから未

来へ豊岡市は台風二十三号で大きな被害を受
け、みんなが協力し、多くの人に助けられて
ここまで復旧したということを伝えていかな
ければいけないと思います。

私は、台風二十三号の被害を受けて感じた
復旧までの苦勞と、人々の温かさ、ボランテ
ィアの方々への感謝の気持ちは、これかもず
っと忘れません。